

日本共産党市議会報告

2021年6月定例市議会報告特集

6月定例市議会が6月4日（金）～6月22日（火）までの19日間を会期として開かれました。4日の開会日には、議長・副議長の辞職に伴う選挙があり、新議長に吉本昌純議員（自由民主党市議団）、新副議長に藪浩昭議員（公明党議員団）が選出されました。また、森下さち子議員（日本共産党議員団）の在職30年表彰状授与式が本会議場で行われました。

常任委員会の編成替えが行われ、井本ゆういち議員が総務委員会の副委員長に、さかぐち多美子議員が厚生委員会の副委員長に選ばれました。

今議会も、新型コロナウイルス感染防止のため、本会議場への出席人数の制限を行いました。

22日（火）の本会議において、報告案件13件、承認案件1件、一般会計補正予算と、特別会計補正予算、職員服務宣誓条例の改正、太陽光発電設備設置事業条例の改正、和歌山市手数料条例の改正、和歌山市民会館条例の廃止、市道路線認定・変更、和歌山市国民健康保険条例の改正、工事請負・物品購入契約、監査委員の選任、追加補正予算案など議案29件と人事案件すべてが原案どおり可決・同意され閉会しました。

日本共産党市会議員団は、議案29件中28件の議案に賛成。問題のある一般会計補正予算案については、中村あさと議員が問題点を指摘する反対討論を行いました。

2件の議員発議について、「和歌山市議会会議規則の一部改正」は賛成しました。『「こども庁」の設置を求める意見書案』には反対。森下さち子議員が問題点を指摘する反対討論を行いました。

一般会計補正予算 (21億8,689万円増額)の概要

①低所得の子育て世帯に対する特別給付金事業（6億1,765万4,000円）、②新型コロナの影響で日常生活に不便が生じている高齢者へのタクシー利用券交付事業（3億434万4,000円）、③生活困窮者自立支援金給付事業（3億1,592万8,000円）、④PCR検査増加による委託費用の増額（1億6,479万1,000円）、⑤新型コロナ感染症患者入院増加による医療費の公費分増額（1億3,244万4,000円）、⑥新型コロナのワクチン接種の計画変更と集団接種実施（1億635万2,000円）、⑦PCR検査数増加による自己負担分の公費増額（7,869万7,000円）、⑧中小企業が事業継続のための拡充・転換などへの補助6,000万円などの増額補正です。

市民の要請行動と共産党市会議員団の 申し入れが実りました。

国民健康保険（国保）に加入する事業主が新型コロナウイルス感染症に感染した場合に、今までは支給されていなかった傷病手当を支給するための条例が制定されました。和歌山民主商工会と和歌山市社会保障推進協議会が5月25日に、市に要請書を提出していました。

日本共産党市会議員団（6名全員）の一般質問は裏面掲載です。

「議案第1号（一般会計補正予算）」に対する、 中村あさと議員の反対討論の内容

総務費・総務管理費中、負担金899万円は地域活性化起業人事業として、三大都市圏に所在する企業等の社員が、そのノウハウや知見を活かし、3年間本市で暮らし、本市への交流人口・関係人口の創出・拡大と移住定住の促進のために必要な取り組みを本市とともに検討しながら推進するものとの説明でした。しかし、本市が企業に対し何を求めるのか、企業が本市でどのように事業を展開してもらえるのかという点は全く示されませんでした。しかも、財源が国の支出金ならまだしも、特別交付税措置を予定した一般財源であること、そして、一般財源であるにもかかわらず、国の募集要領を示すだけという安易な取り組みとなっているため賛成できません。

土木費・都市計画費中、設計委託料629万6,000円について。これは和歌浦ガイダンス施設におけるトイレ等の詳細設計業務委託料です。事業概要は、和歌山市歴史的風致維持向上計画に基づき、周辺施設の観光案内、歴史的文化の情報発信、体験など、和歌浦の拠点となるガイダンス施設整備を進めるとしています。民間活力の導入の可能性を探るとして、昨年、サウンディング型市場調査した結果、初期投資が高額などのため参画が困難という結果になったとのことでした。トイレ等の新築を図るとのことですが、はじめの計画段階で施設の耐震や庭の整備についてなど含む、さまざまな角度からの検討が不十分であり、計画に取り組む姿勢に問題があるため反対です。

発議1号「こども庁」の設置を求める意見書案」に対する、 森下さち子議員の反対討論の内容

意見書案では、一元的な窓口が存在しないため十分な連携が取れないことが問題であるとし、「こども庁」の設置とともに、自治体間格差を生まないように国、都道府県、市町村の連携体制の構築と自治体への財政支援を求めています。子どもの命や権利を守るために国や地方行政が政策の中心に位置づけることは極めて重要であり、そのために十分な財源を措置することは必要不可欠です。

しかし、少子化対策をはじめ、保育所の待機児童解消、児童虐待、子どもの貧困対策など、子どもをめぐる対策が進まないのは、そのために必要な予算の拡充や安心して子育てできる雇用のルールづくり、抜本的な体制の強化を行ってこなかったことが原因ではないでしょうか。子どもの貧困対策に至っては、生活保護制度を子どもの多い世帯ほど打撃が大きくなるような制度へと変えてしまいました。「こども庁」設置のような組織改編で解決できるような問題ではなく、国民の切実な願いに背を向けている姿勢をまず、変えることこそ求められることから、この意見書案に反対です。



リニューアルした市役所正面玄関前にて（撮影時のみマスクを外しています。）

日本共産党市会議員団の 一般質問 (6名全員が本会議で質問しました。)

南畑さち代 議員 ●建設企業委員



コロナ禍での事業者を支える 市独自の直接支援を

南畑：市長として事業者を支える支援策を国・県
でよしとすることなく、目の前の困難者に今すぐ市独自で直接の支援
を行うべきです。

市長：新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新たな取り組みを行いた
いと考えている事業者への手立てが必要であることは認識しており、
市内事業者の支援に取り組んでまいります。

安心して働き続けられるよう学童保育の充実を

南畑：早期に利用決定するとともに、平日の保育時間の延長と、第2・
第4土曜日の保育を毎週に見直しを求めます。

局長：より早く利用決定できるよう努めていく。時間延長と毎土曜日の
開級は、アンケートや利用者ニーズを把握しながら検討します。

森下さち子 議員 ●経済文教委員
●I R誘致に関する特別委員



中学校全員給食に向けて、 子ども達にとって最善のものを 目指すべき

森下：全員給食を実施するに先立ち予算化した調査費について、先進市
を参考に、子ども達にとって最善の実施方式を検討して下さい。

市長：子ども達のことを最優先に考え、本市の実態にあった中学校の全
員給食に取り組んでいきます。

I Rカジノを断念せよと、 市長として知事に進言すべき

森下：今なすべきことはコロナ後の経済をどう考えるかであり、世界の
カジノ業界の現実を直視し、検証することでカジノに依存しない観
光、地域経済の再構築を行うことです。市長自身がカジノ業界の現状
を直視し、勇気をもって断念を知事に進言することを強く求めます。

さかぐち多美子 議員 ●厚生委員会副委員長
●広報委員



学校トイレに生理用品の設置を トイレの整備も不可欠

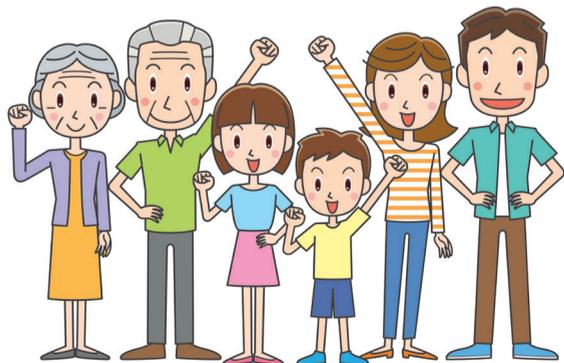
さかぐち：生理用品の入手が困難な児童生徒のため
に学校トイレに生理用品を設置し、男女別になっていない小学校の
トイレを直ちに改善すべきです。

市長：安心して学校生活を送れるようトイレの整備を進めていきます。

高齢者紙おむつ給付事業について

さかぐち：国の制度改正によって、市の対象要件が狭められ、必要な方
に紙おむつが支給されていません。高齢者の尊厳を守るという観点か
ら、思い切って所得要件の拡充を行うべきです。

市長：本市として慎重に検討を要する課題だと考えており、他の事業と
の優先順位を勘案した上で、今後の紙おむつ給付事業の在り方につい
て考えてまいります。



井本ゆういち 議員 ●総務委員会副委員長
●地震等災害対策特別委員



SDGsは世界から 貧困をなくすための目標

井本：2030年度までの17目標について、一部の
目標だけではなく全体的に取り組む計画を持つべきです。

市長：6つの目標を優先的なゴールと設定し、地方創生の推進と地域活
性化につなげます。

生活保護制度はコロナ禍で困っている人々の セーフティネット

井本：コロナ禍で厚労省から生活保護の弾力的運用の通知が何度も出て
います。相談件数は46%増ですが、申請件数が6%にとどまっている
のはなぜでしょうか。

局長：緊急小口資金などの情報提供を行うことで、申請に至らなかった
ためです。

中村あさと 議員 ●建設企業委員 ●地震等災害対策特別委員
●議会運営委員 ●広報委員



買い物難民対策は生活水準や コミュニティ機能の維持

中村：食料品店がなくなり生活が不便になっていま
す。生活する上で買い物ができる環境を維持・継続していくためにも
デマンド型交通の導入などの対策を行ってはどうでしょうか。

局長：地域住民が生鮮食品などをいつでも買い物できる場を確保するこ
とは生活する上で重要です。今後も移動販売等の状況把握に努めると
ともに、各関係部局と連携し、課題解決に向け取り組んでいきます。

感染抑止のため、 コロナワクチン接種と検査体制の拡大を

中村：コロナ禍を乗り越え、市民の安心・安全を実現するため、取りう
る手段を十分に活用し、陽性者ゼロの継続に取り組んで下さい。

市長：ワクチンの接種スピードを緩めることなく実施し、陽性者発生時
の集中的な検査により感染拡大の防止を徹底し、収束を図ってまいり
ます。

ひめだ高宏 議員 ●総務委員 ●議会運営委員
●I R誘致に関する特別委員



ひとつひとつの事業を進める上で 市民の声を取り入れる姿勢を

ひめだ：市が多額の予算をかけて事業を進めるなか
で、多くの市民に喜んでもらえる事業を目指して下さい。市民の声を
聴いて市長・職員さんの知恵を出し合い進めることを求めます。

市長：各種事業において、構想・計画段階で頂いた意見や市民の皆様か
らの要望をもとにさらに充実を図り、より良いものになるよう取り組
んでまいります。

グループホームなど 国の障害者施設建設補助の復活を

ひめだ：国庫補助の制度がなくなったわけでもないのに、市が補助事業
を募集していないのはなぜでしょうか。復活して補助事業を増やして
いくべきです。

局長：2019（令和元）年度以降、募集していないが、今後、施設・事
業所数の推移などを見ながら、補助事業の募集について検討していき
ます。

日本共産党市議会だより 2021年7月

日本共産党和歌山市会議員団 TEL435-1113 FAX421-4181
ホームページ、Twitter は、「日本共産党和歌山市議団」で検索を。
ホームページでは、日々の各議員活動報告等を掲載しています。

